



147

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2017 7/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 飯能研修センター：〒357-0063 埼玉県飯能市飯能325-2 TEL.042-971-4121 FAX.042-971-4155
 滝恋研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝恋村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演日より／園からの声／講習会報告
 4面 制作日より／もぐもぐ劇場案内／春のゲネプロ報告／活動記録 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

新生すぎのこ出発進行！

このたび公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会の理事長に選任されました大場隆志と申します。私は今まで健康産業の分野を通じて、株式会社ソプラティコ代表取締役、株式会社ファーストクリエイティブ代表取締役、NPO北海道健康スポーツ振興会理事長を兼任し、エンターテイメント産業の分野では、株式会社劇団飛行船代表取締役社長、映劇ライヴエンターテイメント代表取締役社長を歴任して参りました。

これからは、公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会を通じて、子どもから高齢者まで多くの方に、心の健康と体の健康を提供できる組織を目指していきたいと考えております。

公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会は、1964年8月に「劇団杉の子」として創立し、50年以上の長きにわたる人形劇をはじめとする舞台芸術活動が続けてくることができました。これはひとえに多くの皆様のご支援とご協力の賜物と心から御礼申し上げます。

「どの子にもナマの舞台の感動を！」という劇団すぎのこの創業時からの目標は、私たちソプラティコグループの「幼い胸に美しい夢と感動」「人々の心に輝きをもたらし会社を指す」と偶然にも同じような内容で、普遍的な使命を感じることができました。

劇団すぎのこは創業時から、公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会となった今でも、「どの子にもナマの舞台の感動を！」そして「創意と行動力のある心の優しい子」を育成するという夢を追求し続けて参りました。そして創立から52年が経過し、世の中の状況が大きく変化する中、足を止めることなく、ひたすら夢の実現に向けて走り続けて参りました。

理事長 大場隆志

私は5月31日、すぎのこの理事及び理事長職を退任致しました。

私のすぎのこ在歴は、営業制作、事務局長、理事、二代

目理事長と、52年と2ヶ月。その間、兄である創立者・初代理事長故小澤明共々、皆様には一方ならぬご指導ご支援ご鞭撻を賜り、その任を何とか果たして来る事が出来ました事、心から感謝し御礼申し上げます。

例えば、昭和39年、東京オリンピックの年に産声をあげ、テレビでは決して味わう事が出来ないナマの舞台の感動を、どんな離島山間僻地にも届けよう！と始めた幼稚園保育園での全国巡回公演は、平成28年度末時点（52年間）で、8万3千余回の公演で、85万余名の観客動員を果たしました。

公演活動の傍ら、21世紀を担う子ども達の健全育成のために、子供会、冒険隊、わんぱくクラブと名を変えながら実施してきた野外を主体とした活動は、タイ・フィリピン・シンガポール・中国・韓国・日本、が参加する国際わんぱくクラブの開催など、すぎのこが考える理想の子ども像「わんぱく（健康な身心で、旺盛な好奇心を持ち、溢れる行動力で、智慧を磨き、優しい心を持つ子）育成活動へと発展し、群馬県嬭恋村にはそのための野外研修施設も整備されました。

お陰様で、あんな、そんな、こんな、意義深いたくさんさんの仕事をさせて頂けた私は、幸せいっぱいでの引退に酔いしれているところです。

すぎのこには公益法人という未来へ向けた立派なレールが敷かれています。これから時代に対応し素晴らしい機関車を、新理事長のもとに設計完成し走らせて頂きたい。

すぎのこを温かくご指導ご支援ご鞭撻くださった皆様とともに…。

皆様の健康とご多幸を心から祈念し、退任の挨拶に代えてさせて頂きます。

本当に長い間ありがとうございました！

顧問 小澤幸雄

すぎのこの主な略歴

創立：劇団杉の子 昭和39年8月1日
 財団法人認可：財団法人劇団すぎのこ 昭和55年5月19日
 名称変更：財団法人すぎのこ文化振興財団 平成10年7月15日
 公益法人移行認定：公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会 平成23年8月1日

巡回公演だより

そつくりのくりのき班

榎本 均

あの時、泣いていた男の子へ
静岡県伊豆市修善寺の保育園で
した。終演後、人形で見送って
いた時、先生に肩を抱えられた年長
の男の子が、目に涙を浮かべて立
っています。

「くりのきのおじいさんが、嵐
に飛ばされていなくなったのが悲
しくて泣いたようです」私は少し
意外で少し驚き、「いや、そうで
したか。男の子が泣くのは珍しく、
良い感覚を持っていますね」と、
何も言わなかった方が格好よかつ
たのに、何ともチグハグなことを
言っていました。

今まで何度か経験していること
だが、大抵は年長の女の子が泣く

のが定番で、劇の最中に「ウワァ
ー」と声を張り上げて泣く子もい
た。でも男の子が泣くことは、一
度あったかなかったか。

それにしてもあの時の光景をど
う言えばいいのだろう。涙が今に
も落ちそうなのに、こぼれないよ
うに、その潤んだ瞳は何かを怒っ
ているように、何かを堪え忍んで
いるように。

嵐に負けないように大きな声で
「がんばれ!」と応援したのに……
悔しいのだろうな、むなしのだ
ろうな、彼のまだ小さな胸の中
でさまざまな感情が渦巻いていたの
だろうな。春になり、年長のおに
いさんになった狭間で、春の日差
しの中、風がカーテンをゆらすま
どろみのさみしさなのか。

しかし、泣く男の子の傍らには、
さつきからそっと肩に手をか
けている先生がたずんではい
ます。男の子の何らかの気づ
きを受け止めている愛しみを
感じました。

夏の夜空にちらばる星の光、
空の上の天の川のファンタジ
ーの世界は、今は夢物語のよ
うになったけど、見上げなく
てもすぐそばには、今もその
時を生きた人達のそれぞれのきら
めきの物語もあります。

三まいのあふだ班

星野 翼

今年の新作として、「三まいの
おふだ」というお話を上演してい

ます。全てが新しく、子ども達が
どんな反応をしてくれるのかワク
ワクしながらお話を作っていくの
は、とても楽しかったです。

初めは、子ども達の期待に応え
られなかったらどうしよう、とい
う不安がなかったわけでは決して
ないのですが、たくさんの方にサ
ポートしていただき、その不安も
いつのまにか消えていったように
感じます。

旅が始まると、どちらの園でも
子ども達は楽しそうに見てくれま
す。お話に出てくるやまなばに怖
がる子もいます、小坊主とやま
なばの掛け合いに笑ってくれる子
もいます。皆がよく見てくれるの
を感じて、頑張っ作ってきて本
当によかったと思います。

公演終了後、子ども達の「楽し
かった、また来てね」という言葉
を聞いた時には、とても嬉しくな
ります。子ども達に生の舞台の感
動を伝えたい。たくさんさんの思いが
詰まった「三まいのあふだ」とい
うお話を、今後ともどうぞよろし
くお願いします。



ももたろう班

長谷川 唯

「桃太郎」と言えば誰もが知って
いる代表的な日本の昔話。単純、
明快なストーリーながらも、勇気
優しさ、力を合わせて目的に向か



三まいのあふだ

■安野こども園(新潟県阿賀野市)
子ども達がとても楽しみにして
いた(実は職員も)「三まいのあ
ふだ」。電話で「二人で(うかが
います)」と言われ、え?と驚き
ましたが、当日……さすがでした。
大きなかぶの人形劇も工夫され
ていたし、二人の呼吸もぴたりと
合って、あつという間に時間が過
ぎてしまいました。間のとり方、
言葉の発し方など、興味を持つよ
うに構成されていました。

■ほたる保育園(新潟県上越市)
今回は、どちらの話も、子ども
達がよく知っていて、おもしろ、
楽しくアレンジしてあり、子ども
はもちろん、職員もみんな楽し
ませていただきました。繰り返し
音楽が入るだけでも盛り上がり、
手拍子も自然と出ていました。

そつくりのくりのき

■天泉こども園(福島県須賀川市)
コンちゃんやくりの木が歌う言
葉のリズムが楽しく、子ども達も
歌が始まるととても楽しそうでし
た。

命の始まりがあれば終わりがあ
ること……子ども達に言葉で伝え
ることは難しいことです。今回劇の
中でくりの木が嵐に飛ばされ悲し
い気持ちになっていると、新しい
くりの木が命を引き継ぎたくさん
生まれてきました。この場面で一
気に子ども達の表情が明るくなり
安心した姿を見て、命があること
の大切さを感じてくれた気がしま
す。生きること、命があること……



▲2枚とも福島県須賀川市天泉こども園より



生命の力強さを感じることでき
たすてきなお話でした。

■修善寺保育園(静岡県伊豆市)

狐の子とくりの木のおじいさん
との心あたたまる、時にジーンと
くるお話に子ども達も引き込まれ
なには、終わって涙を流す年長
の男の子がいるほどでした。

演出にも工夫が凝らされ、楽し
く、また参考にさせていただきな
がら鑑賞できました。

ももたろう

■釧路こども園(北海道釧路市)

子ども達の知っているお話にユ
ーモアを交えたところや、舞台の
早変わりや人形の動かし方にも興
味を持ち、歓喜の声をあげて楽し
んで見えていました。

■認定こども園北見藤幼稚園(北海

道北見市)

鬼を怖がる子はいましたが、な
じみやすいキャラクターだったの
で、最後まで楽しく観られました。
正統の桃太郎のストーリーだった
のがよかったです。演技者の方が
マイクを使用せずにセリフを言っ
ていたのが、感心しました。

若い保育者は「子どもと同じよ
うに見入っていました」と言
っていました。

■斜里町立はまなす保育園(北海道
斜里郡)

未満児クラスの園児もたいへん
楽しく鑑賞することができました。
舞台装置など現場でも参考にな
るような素敵なもの、それだけ
でも目を引きました。

おだんごばん

■桜井保育園(福岡県糸島市)
・歌が難しいと思ったが、部分部
分で練習があったので覚えられ
た。一体感を感じ、よかった。
・小さい1歳児も最後まで観られ
ていて驚いた。

・普通では見られないような人形
でマンネリにならず、よかった。

■こどもの森(福岡県築上郡吉富町)
いろいろと工夫をこらした人形
が出てきて、とても楽しかったで
す。人形の動きやストーリーの中
の手遊びも子ども達が楽しめるも
のだったので、園児達も喜んで観
劇できました。

星の王子さま(ほんわか劇場)

■松江図書館(東京都江戸川区)
劇の後、人形とお見送りをして
くれて、子ども達が喜んでいまし
た。大人も子どもも楽しめる内容
だと思いました。
原作が少し難しい内容の作品で
すが、アレンジによって子どもで
もわかりやすいものになっていた
と思います。子ども達は演者から
の問いかけに答えることで、劇の
世界に入り込み、楽しんでいま
うに見えました。



って頑張ることなど、大切なことが凝縮されています。だからこそ長年親しまれてきた桃太郎のお話。嬉しいことにアンケートで好評をいただいています。起承転結がはっきりしている題材の良さに頼らずに、人形劇ならではの「桃太郎」の面白さを伝えていかなければならないという思いで取り組んでいます。

中でも、犬、猿、キジ、それぞれ全く異なる特性、性格の動物達が、自分の持ち味を生かし、桃太郎と協力して鬼と闘う場面は、物語の醍醐味です。動物達が次々と躍動感あふれる攻撃を鬼に仕掛けると、鬼への恐怖心をかき消すかのように、子ども達の笑い声が会場に響き渡ります。

桃太郎達の活躍もちろんですが、爺ちゃん婆ちゃん存在がお話の土台にあります。友達や村人達のために自分を顧みずに立ち向かうとする強い意志や、出会う動物達にきび団子を分け与える優しさを持った子に育ったのは、心の温かな育ての親がいたからこそ。「神様からの授かりもの」と、桃太郎を大切に育ててきた爺ちゃん婆ちゃんを、子ども達のお父さん、

お母さんを彷彿とさせるように演じられたらなと思います。

「よろしくお願いします」最初の挨拶では少し緊張きみの表情を浮かべる子ども達も、最後は「楽しかった」「また来てね」と笑顔になれる。そんなすぎのこの人形劇を今日もまた届けに行きます。

おだんごばん班 七海 美流歌

この春「おだんごばん班」として九州を回っている。九州は私にとっては思い出の地で、公演が決まった時には少し嬉しさを感じた。九州は昨年の10月に入団して初めて訪れた場所、そこに同じ演目で再び訪れることから、私は何かの縁を感じずにはいられなかった。思い出に残っている港に降り立つて改めて眺める九州は、宛然たる夏の匂いが漂っていて、私の心まで晴れやかに彩ってくれた。何だか、幸先が良い気がして口元がほころびてしまった。

こうして幸先が良いと思っても、辛いことがあるのもまた旅と言えるだろう。そんな時私の心を支えてくれるのは、他でもない子ども達の笑顔だった。子どもは純粋で愛らしい。きらきらとしたその眼差しを目の当たりにすると、まるで私の心が光り出すような感覚を味わう。

それは砂漠の真ん中で見つけたオアシスのように私の心を満たしてくれて、子ども一人ひとりと視線を合やすその瞬間瞬間が大切に特別だと思えてくる。これこそが私の明日への原動力なのだと深く思う。この先も子ども達と共に末永く歩けたら



と願っている。

ほんわか劇場 わた よりこ

ほんわか劇場ひとり人形劇「星の王子さま」を、5月のゴールデンウィーク最終日の午後、江戸川区の松江図書館で上演しました。

2歳位から小学六年生までの子どもとご父兄が集まってくださいました。職員の方々のご配慮のおかげで、前の方に小さい子ども、後ろは大人といった、観客も演者も集中しやすい上演だったと思います。私自身は、演じながら子ども達と人形とのやりとりの子どもの言葉に驚いたりして、一場面一場面をとにかく必死でやりきることに集中していました。

公演後、ロビーにキツネの人形でご挨拶に行くと、子ども達がとても喜んでくれました。またご父兄の方々も「星の王子さまの本読んでみます」「星の王子さまミュージアムに以前行きました」などと声をかけていただき、皆さんに喜んでいただけたことにホッとしました。

この作品は四年前に初日を迎え、保育園、幼稚園、児童館、人形劇祭で上演してきました。

「子どもには難しいのでは？」という意見もあるなか、何度も台



本を書き換え、舞台装置をやり直し、上演ギリギリまでその時のベストの状態の仕上げを目指し、毎回初日と同じ緊張感の中で上演に臨んでいます。

これからもたくさんの方々に御意見をいただきながら、子どもを育てていくように作品を成長させていきたいです。そして観ていた方々の心の中に、少しでも何かが残るような上演をしたいと、今回強く思いました。

園からのおたより

「ももたろう」ととても面白かったです。表情や声の強弱など、子ども達も興味津々で、すぐに引き込まれていきました。

笑ったり、驚いたり、ももたろうが木から落ちた時には一緒に心配したり、とても楽しい時間を過ごしました。

早速次の週に「ももたろう楽しかったね」「お礼のお便り出そうか？」の話になり、みんなで絵を描くことに決めました。「みんな何が楽しかった?」「桃が流れてくる場所」「生まれた時におばあさんにおしっこかけるところ」「鬼とたたかうところ」と様々な声が出てきました。かばお君も人気で「また会いたいな」という声も…。

ひまわり組さんにとって、観劇は今年最後（卒園なので）ですが、きっとみんなの思い出として心に刻まれたことでしょう。ありがとう!! 「すぎのこ」さん!!

また来年お会いできることを楽しみにしています。

北海道標津郡中標津町
計根別幼稚園 ひまわり組より



人形劇講習会 (5月10日)

福岡県福岡市みどりがおか幼稚園は、ここ数年、観劇会と共に先生方の講習会を行っている。

今年は人形操作ということで、すぎのこが新人訓練で行っている基礎講習を中心に進める予定であったが、さすがにこちらの先生方のレベルは高い！一通りやり方を紹介するにとどまり、早々と実習に入った。

実際に芝居をする先生方は、水を得た魚のようだった。一応教材となる台本はあったが、自作の人形の個性を生かしたアドリブ満載で、観ている私達も大笑いだった。こうなると講習というよりも個

人的関心で、3人ずつのチームに分け、数分の打ち合わせを持って即興の寸劇をしてもらった。全くの自由というのは逆に何をしたいのか分からなくなることもあるが、先生方は物怖じせず表現してくれた。この楽しさは、きっと園児にも伝わる。ぜひ見せてあげて欲しいと思う。(野見山 大輔)



制作をよ

きれいな桜が咲く春が終わり、緑豊かな日差しが強い夏の季節がやって来ました。入園したばかりの子ども達もすっかり園内での生活に慣れ、元気に過ごしているこ

池袋いけいけ人形劇まつり

皆さん、今年のゴールデンウィークはいかがでしたか？ 5月4日、我々はまさしくゴールデンでスペシャルな一日を過ごしました。毎年行われる池袋いけいけ人形劇まつりに参加してきました。

この日は紙芝居やペープサート、ギニョールにマリオネットと多種多彩な演目が目白押しで、それがなんと一日中、見放題というおま

春のゲネプロ

今年も4月29日（土・祝）に、春のゲネプロが飯能研修センターにて行われました。今回は新作の『三まいのおふだ』を含む4作品を、地域の皆さま、そしていつもお世話になっている方々に披露させていただきました。

4月に新しい班体制になって初めて、皆様に劇をごらんいただくこの日は、朝から、いよいよ前日から、俳優はそれぞれ緊張していたようです。また、それぞれの作品上演後には、演出家の先生をはじめとする関係者からのありがたいご指導が待っています。そして

とでしよう。

私もそんな子ども達と一緒に、今までは俳優として現場に出て演技をしてきましたが、今年度からは、初めて制作として全国の各施設に公演のご案内の電話をさせていただいています。

俳優として現場に出ている時は、自分の目で子ども達が進んでいく反応

つり！ ずっと人形劇にひたれるなんて、こんなゴールデンな一日なんて、なかなかないですね？ いつもは幼稚園や保育園での公演が主な私達にとって、一般の方にも人形劇に触れてもらえるまたとない機会。これを我々が楽しまないわけがない。

今年には新作『三まいのおふだ』を掲げて参加してきました。やまなばの人形で会場を練り歩き、若い学生さんからベテランの方まで皆とハイタッチ！ 人形劇の面白さ、まだまだ広がる可能性の大き

また再考、手直し、と稽古を重ね、ようやく皆さまのもとへ人形劇をお届けできるのです。特に新作のメンバーはやる事がたくさん。休む暇なく直前まで小道具を製作したり、作品と葛藤したりと大忙しでした。

さて、今回のゲネプロは8月下旬に予定しています。日程や場所につきましては、お気軽にお問い合わせください。各上演班がひと旅を終えて、春とはまた違った雰囲気でお届けできるはずです。

一番暑い時季かと



(福島 亜紀)



をして、どんな声で笑ったり泣いたりしているのか、しっかりと見えていた状態で演技ができていたが、ご案内する相手は子どもではなく大人の先生、しかも姿は見る事ができず、声だけで相手の思っていることや感じていることを察しなければなりません。

俳優としての芝居の難しさとは

さ、そして笑顔の温かさ。みんなで笑って、人形劇ってなんて楽し

まったく違う制作の難しさに、四苦八苦している毎日です。今後とも誠心誠意を込めて全国の施設に電話をかけさせていたいただきますので、電話があった際には、温かく迎えてください。

(太田 令)

いのかしら！ と心から思った一日でした。

(吉田 薫)

劇団研究生を募集しています

すぎのこでは、子ども達にナマの舞台の感動を届ける仲間（劇団研究生・人形劇俳優）を募集しています。全国の幼稚園・保育園や各種イベント会場・劇場などで人形劇の公演活動を通じ、たくさん笑顔に出会えることがこの仕事の魅力です。巡回公演が中心ですので、長期間の出張が可能な方、子ども好き、旅好きの方で興味を持たれた方はぜひ、私達の活動に参加してみませんか。尚、未経験の方は研修・指導を行います。

活動内容や条件等、詳しくは左記へご連絡ください。

E-mail: info@suginoko.org

または042-971-4121

(事務局)



もぐもぐ劇場 (首都圏班)

毎日、暑い日が続いています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

もぐもぐ劇場は、首都圏を中心に活動をしています。旅公演と違い、今日は群馬県、明日は茨城県...と飛び回っております。首都圏の場合は、交通事情の関係で、どうしても早朝出発になります。昔は、早起きは苦手で

したが、最近、苦にならなくなりました。(歳のせいでしょう！)

長年、この仕事

をしていると、こんな嬉しいこともあります。10年以上前に観てくださった園長先生から『かもとりごんべえ』は、まだ、やっていますか？』と電話をいただいたのです。前に観た時の印象が強く、また、観たい！とのことでした。

俳優にとって、これ以上、嬉しいことはありません。これからも、子ども達の心に残る人形劇をお届けできるように努力してまいります。今後とも、よろしく願っています。

●もぐもぐ劇場 (首都圏班)

レパートリー

○かもとりごんべえ ○ねずみの嫁入り ○小坊主・ずい

てん ○なかよし ○証城寺のたぬきばやし(絵話) ○三

匹のこぶた(飛び出す絵話)

小作品

○犬の話 ○大根・ニンジン・

ごぼう 他

(下村 あきり)



活動記録(平成29年4月～6月)

- 4/8 第一期全国巡回公演開始
- 5/4 池袋いけいけ人形劇まつり参加 於・南大塚地域文化創造館 (東京都豊島区)
- 5/10 人形劇講習会開催 於・みどりがおか幼稚園 (福岡県福岡市)
- 5/16 第12回定例理事会開催 於・当公益財団事務所
- 5/31 第6回定例評議員会開催 於・当公益財団事務所
- 5/31 第6回臨時理事会開催 於・当公益財団事務所
- 6/30 平成28年度事業報告及び収支決算報告を内閣府に提出